

第2学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「だいじなことばに気をつけて読み、確かめたことを知らせよう」 教材名「ロボット」

2 単元の目標

ロボットについて知るために図書を選び、読書によっていろいろなことが分かると気付ける。ロボットの働きについて文章を読んで確かめたことを、本文の言葉を確認しながら友達と共有できる。言葉の働きを確認め、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①ロボットについて知るために図書を選び、読書によっていろいろなことが分かると気付いている。（〔知識及び技能〕(3)エ）	①「読むこと」において、ロボットの働きについて文章を読んで確かめたことを、本文の言葉を確認しながら友達と共有している。（C(1)力）	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

ロボットについて、何をするものか、どの説明からそう分かるかを結び付け、読んで確かめたことを相手に知らせる。教科書から確かめたことと、図書で調べて確かめたことを混ぜない。学習指導要領のC(1)力を中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(3)エを、言語活動の中で確かめる。

(2) 児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

(3) 指導について

「名前」「すること」「本文で確かめたところ」の欄を並べる。働きの内容の理解が難しい場合は、誰が何をする文なのかを主語と述語に分け、動きを身振りで確かめてから言葉に戻す。おおむね満足できる状況は、ロボットの働きについて文章を読んで確かめたことを、本文の言葉を確認しながら友達と共有しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確認する支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全12時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1～2	○全文を読み、既に知っていることと本文で初めて知ったことを分ける。説明されているロボットを確かめる。	学習状況を見て支援する。
第2次	3～4	○それぞれのロボットについて、することを表す言葉を探し、働きの表に整理する。	知①（語句や内容の整理）
	5～6	○紹介したい働きの、その働きの分かる本文の箇所を選ぶ。名称だけの説明と働きを示した説明を比べる。	学習状況を見て支援する。
	7 （本 時）	○働きを伝えるために大事な言葉を選び、紹介カードの下書きを友達に説明する。	思①（発言・学習記録）
	8～9	○疑問に合う図書を選び、教科書で確かめたことと区別して追加の情報を調べる。	学習状況を見て支援する。
	10～11	○紹介カードを仕上げ、読み手が分からなかった箇所を質問し合い、説明を直す。	学習状況を見て支援する。
第3次	12	○カードを交流し、自分の調べたロボットとの違いや、読書で確かめたことを振り返る。	態①（学習前後の記録・振り返り）

6 本時の指導 (7/12)

(1) 本時の目標

ロボットの働きについて文章を読んで確かめたことを、本文の言葉を確認しながら友達と共有できる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。 ○「友達にこのロボットの働きを知らせるには、どの言葉を大事にして説明しますか」 【めあて】ロボットについて、何をするものか、どの説明からそう分かるかを結び付け、読んで確かめたことを相手に知らせる。 〈予想される児童の反応〉 ・形のことより、何をするかを知らせたい。	本時に考える対象を確認し、既に確かめたことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「友達にこのロボットの働きを知らせるには、どの言葉を大事にして説明しますか」 自分で言葉や本文の箇所を確認、理由を添えて考えを書く。ノートを示して説明し、聞き手は確かめたところと、まだ確かめたいところを返す。全体では考えが分かれた箇所を取り上げ、何を根拠にしたかを比べる。 〈予想される児童の反応〉 ・形のことより、何をするかを知らせたい。 ・この動きを表す言葉があると、働きが伝わる。 ・同じ名前でも本によって説明の詳しさが異なる。	「名前」「すること」「本文で確かめたところ」の欄を並べる。働きの内容の理解が難しい場合は、誰が何をする文なのかを主語と述語に分け、動きを身振りで確かめてから言葉に戻す。 想定する難しさ：見た目の感想だけを話す、書いていない機能を想像で補う、図の印象だけで説明する。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① ロボットの働きについて文章を読んで確かめたことを、本文の言葉を確認しながら友達と共有している。(発言と学習記録)
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって確かめたことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・同じ名前でも本によって説明の詳しさが異なる。	まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った実際の言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って紹介や説明の文章を直す。 ◎態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「友達にこのロボットの働きを知らせるには、どの言葉を大事にして説明しますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた実際の言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

